

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

第 9 号

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561 E-mail hokuhoku@kouhoku-shakyo.jp

2013 年 6 月

入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

## 2013 年度総会無事終了

### —新しい活動を目指して—

5月15日今年度の総会が多くの会員参加で開かれました。提案された議題は活発な議論のもと、すべて承認されました。総会後には早くも今年のタスク分けが始まり、今年度も活発な動きが出来るものと期待されます。

#### 総会記録

**出席者：**井上会長（港北区ボラ連）、白井副会長（個人）、萩生田（港北区役所総務課）、倉橋（港北区役所地域振興課）、富士塚ボランティアグループ、港北区地域子育て支援拠点どろっぷ、国際救急法研究所、国際交流ラウンジ、社会福祉法人陽だまりの会、仲手原マザークラブ、港北区ボラ連、個人9名、根本、井上、山本、（区社協）

**司会＝白井副会長 記録＝和田・河野**

区の防災計画が変わり4月以降、適格な情報提供を行い対応する為にボランティア班を設け、班長に港北区役所地域振興課＝中田課長、副班長に港北区役所地域振興課生涯学習支援係＝倉橋係長が担当する事になり、総会前に萩生田氏（港北区役所総務課防災担当）と倉橋班長が挨拶と所轄事項の説明を行った。

#### 総 会

井上会長を議長に選出。

- 1 平成24年度事業報告を白井副会長が報告、審議の上、全員の承認を得る。
- 2 平成24年決算報告は会計の斎藤さんより報告、審議の上全員の承認を得る。
- 3 平成25年度事業計画（案）を白井副会長より説明提案有り審議の上、全員の承認を得る。
- 4 平成25年度予算（案）を会計の斎藤さん

より提案、全員の承認を得る。

#### 承認された災ボラの事業計画

阪神・淡路大震災はボランティア元年と称されるほどに多くの人々が現地を訪れ復旧、復興のために活動した。そこから各地で多くの災害ボランティア団体が活動を始めだし、神奈川県でも1997年に神奈川災害ボランティアネットワークが誕生し、今や県内各地で19地区ネットワークが、そこに所属する横浜災害ボランティアネットワーク会議には15区の区ネットワークが加入するまでになっている。それらの活動課題は当初は災害時にボランティアセンターで活動しセンターの運営を円滑にする人材育成が主と考えられてきたが、その後各地で発生した災害現場での活動経験を踏まえ、地域防災のための防災講習会の開催、各地の災害現場への要員派遣や支援活動のためのボランティア派遣、長期にわたる復興支援など活動の幅を広げてきている。

それらの活動から災害ボランティアセンターとは何をする組織なのかが次第に明確になってきている。単にボランティアを過不足無く調整し、現場の活動が円滑に行えるようにする、といった作業だけではボランティアセンターの機能としては不十分であり、被災地の復興につながるボランティア活動を支援するといった大目標をかなえる事は出来ない事が分かってきた。

港北区災害ボランティア連絡会も1998年に区内の諸団体が災害時にどのように行動すれば良いかを考える事から始まり、同じような課題解決のための活動を続けてきたが、現在は会員数の伸び悩み、活動内容の固定化など様々な

壁に直面していると言って良い。そのような中、そのなかで災害時のボランティア活動に対する協力関係が明確化された。今後は行政と協定書を交わしセンター運営時の確認をしていくことになる。いよいよ私たちの力量が問われることになる。地域災害ボランティアネットワークの力は地域の諸団体と多くつながることによって生まれてくる。「ネットワーク」と呼称する所以がそこにある。港北区災害ボランティア連絡会はまだ「連絡会」との名称だが大きなネットワーク力を持つ事が大切な課題である。

そこで今後の活動を考える上で連絡会の「活動目的」、それを実現するための「活動目標」、その中から今年度に行いたい「年度計画」と段階を経て考えてみたい。その結果、入っていて良かった、役に立った、という実感を持てる活動を作り上げていきたい。

#### 港北区災害ボランティア連絡会の活動目的

- 1 災害時の災害ボランティアセンター運営能力を高め、いざというときに備える。
- 2 災害に強い町を目指し、地域防災力の向上に努める。
- 3 以上を通して多くの地域防災人の育成に努める。
- 4 以上の目的達成のため組織の強化を図る。

#### 活動目標

- 1-① 災害ボランティアコーディネーターを増やす
- 1-② 災害ボランティアセンター運営訓練を重ねて技能を高める
- 1-③ 災害現地での活動から学ぶ ②
- 2-① 地域防災訓練への積極的に参加する③
- 2-② 防災出前講座を開催し、地域の防災力向上に貢献する
- 2-③ 地域防災訓練へのアイデア提供をし、参加者を増やし地域の力を高める
- 2-④ 地域の諸行事を手伝い、多人数の集会での運営力を高める
- 3-① 広報活動を強化して防災知識の普及を図る
- 3-② 区内諸団体（教育、経済、福祉、運輸、建設など）との交流を図る
- 3-③ 防災講座を開催し防災知識の向上に努める

- 3-④ 被災地と直接つながり、支援することを通して、災害の実際と復興の知恵を学ぶ
- 4-① 区内の諸行事に積極的に出向き、連絡会をアピールする
- 4-② 事務局機能を強化する
- 4-③ 役員会の強化充実する
- 4-④ 行政とのパイプの強化する

以上

## 第2回定例会記録

総会終了後、第2回定例会を開催した。

○タスクは、過去にとらわれず良いと思うことは進めて行き論議を重ね、委員の増強を図り新しい意見を取り入れて、タスクの活性化を図る必要がある。

○ハンドブック作成に係った人はシミュレーションにも携わり、ハンドブック作成で得た知識をシミュレーションに生かすべきである。

○複数のタスクで活動を希望される方は、複数に参加活動しても良い。

○行政を巻き込み地域に働きかけ災ボラに参加をPRすべきだ。

○タスクはとりあえず3チームにし、各タスクに配置希望も定例会出席者が仮登録し、正式には6月の定例会で決定する。

○各タスク別に仮登録した氏名は下記の通り。

### ① イベント（ボランティア養成・セミナー・施設見学）

大井、原、山口、白井、和田、小澤、河野、国際交流ラウンジ

### ② シミュレーション（ハンドブック）

渡部、古川、山本、中島

### ③ 地域活動（PR、組織）

井上会長、斎藤、宇田川、野田、古川、山本、付岡

## 次回例会 6月19日（水）10時

\*各タスクの始動日です。

会員はどのタスクで活動したいかを確認しておいて下さい。新しいタスクを作ることも可能です。活動が活発化する基本は会員の皆さんがタスクで動くことです。皆さんのアイデアをお待ちしています。やりたい活動をしましょう。

# らくらく市で災害ボランティア連絡会をアピール

5月19日(日)午前10時から午後2時まで港北図書館前広場でひらかれたらくらく市に港北区災害ボランティア連絡会が出展しました。らくらく市は1986年に地域の障害者の働く場が中心になって7団体で始めたバザーです。今年は港北みりよく発見団、国際救急法研究所、おやこの広場びーのびーの、陽だまりの会など29の団体が出店し港北図書館友の会による古本市も開かれました。また菊名囃しの可愛い子どもたちによる太鼓と舞いも演じられました。



当日は良い天気恵まれてたくさんの方で賑わいました。港北区災害ボランティア連絡会は国際救急法研究所の机をお借りして旗とパネルを展示しチラシを配って災害ボランティア連絡会をPRしました。



篠原在住の若者も手伝いにきてくれてワカメとまけないぞうをしっかりと売ってくれました

多くの方が関心を持っているのが分かり、今後も働きかける必要性を痛感しました。

## 参加団体紹介 13 室伏俊明 (個人)

2011年3月に元住吉から菊名に越してきました。その数年前から、こちらの災ボラシミュレーションに越境参加していたこともあり、転居の翌々月に入会しました。

最近、講習を受けて「やさしい日本語」の翻訳ボランティアを始めたので紹介します。

「やさしい日本語」は、阪神・淡路大震災での経験をもとに生まれた、在日外国人に情報を伝える手段です。災害時には、次々に入ってくる情報を多言語に翻訳している余裕がないため、初心者の方にもわかる「やさしい日本語」での伝達が効果的なのです。

「余震が起きるおそれもあるため、余震に対して十分に注意してください」の「やさしい日本語」への翻訳は、例えば「余震(よしん)【後(あと)から来(く)る地震(じしん)】に気(き)をつけてください」(丸かっこ内のふりがなは実際にはルビ)のような感じになります。

これ以外に福祉関連のボランティアをいくつかしていることもあり、災害弱者(災害時要援護者)支援に関心があります。

## 東日本大震災の現場から

### 久之浜と富岡 - 山本正史

4月4日にいわき市久之浜町の神幸祭に行ってきました。町にある4つの神社の神輿が町内を巡行します。北町町会の星廻宮神社は津波で社殿とお神輿が流され、浅草の神社からお神輿を贈られました。神輿の担ぎ手として三島の方々、石川町の方々、浅草の方々などが参集しました。私は神輿は担ぎませんが、星廻宮神社の幟を持って御幣持ちの区長さんと北町の神輿の前を歩きました。今年は上野下谷神社の阿部宮司の呼びかけで東京の10あまりの神社関係の方々や、國學院大学の学生さんなどが縁日の露店を設けて下さいました。食べ物、飲み物や各種ゲームのお店などたいそうな賑わいでした。普段はあまり見かけない小さな子供が楽しそうにしているのが印象的でした。

海側の堤防近くでは防災緑地化するための盛り土工事が始まっていました。また公民館、

市役所支所は4階建ての防災ビルに立て直すそうです。津波で壊れた家を修理したり新しい家を建てたりゆっくりとですが復興へと歩み始めているようです。4日は社務所に泊めていただき、5日は今年立ち入り禁止が解除された富岡町の様子を見に行きました。

富岡町は海から近いせいで津波の被害も甚大です。1階が潰れた民家や2階まで津波が達したビル、田んぼに転がっている漁船、津波に流された自動車、遮断機がもぎ取られた常磐線の踏切、津波で破壊された富岡駅舎など2年前の惨状がそのまま残っています。



富岡町の復興計画では町民の帰還開始は平成29年以降だそうです。津波被災地の住民や常磐線、駅舎は高台に移転するそうです。県内県外に避難されている方々が一日も早くふるさとに戻られることを願ってやみません。

## 役に立つ災害 DVD

### 「逃げ遅れる人々」

#### 東日本大震災と障害者

東日本大震災では障害を持っている方の死亡率が非常に高いことが各種の調査で明らかになっています。NHKの調査では被災地全体で2倍、宮城県調査では沿岸部の死亡率0.8%に対し障害者手帳所持者は3.5%に上っています。被害のひどかった女川町ではなんと15%台にのぼっています。その原因は考えれば分かることばかり。車椅子利用者は平らなところ以外動けません。激変した状況でどのように判断したら良いか分からないまま犠牲になった方もいるでしょう。また障害者は発災直後だけでは

なく、その後の避難生活でも大きな困難を強いられる人々です。

内閣府の災害時要援護者の避難支援に関する検討会報告書では、今まで避難時に力点が置かれがちな対策を、発災時と発災後の区分で考え、単に発災時に「避難行動要支援者」（様々な理由で避難が難しい人）とされる人以外にも、避難行動で負傷して支援が必要なひとや乳幼児、妊婦、外国人、障害児者、難病患者など幅広く考えて、発災後も支えあっていこうとしています。

この連絡会も発足当初は障害者支援団体が災害時の困難を克服するために多くの力を発揮して出来上がった経緯があります。すべての人が年老いれば支援が必要になる可能性が出てきます。ですから高齢者支援は考えやすく、身近に例もたくさんあるので分かりやすいのですが、障害者や外国人問題は普段から付き合いがないと問題点さえ分かりません。連絡会に支援団体だけでなく、当事者の方も入っていただけると論議を深める事が出来、生きた対策を立てやすくなるだろうと思います。

#### 「逃げ遅れる人々」上映会のお知らせ

日時 6月10日（月）9時30分～  
会場 下田地域ケアプラザ

\* 宇田川がこの映画の上映権付きDVDを持っています。上映希望の方がいらっしゃいましたらご連絡ください。

#### ■編集後記■

- ☆ ただいま10号用原稿が3本も届いています。ニュース発行も軌道に乗って来た感があります。皆さんの地域ニュースも是非お願いします。（宇）
- ☆ 神奈川県庁と川崎市庁の災害対策本部室を見学してきました。このような設備が実際に使われることがありませんように（山本）
- ☆ 日に日に暑くなってきて、被災地でも菜の花がきれいな季節になってきました。菜の花を見に被災地を訪れてみるのもいかがですか？（野田）
- ☆ 福島からヒマワリの種をわけいただき、どろっぶの庭に植えました。太陽に向かってどんどん伸びていって、大きな花が咲くといいな。（山口）